

産婦人科この1年

産婦人科医長 川村 光弘

医療圏の実態

名寄市立総合病院産婦人科が扱う医療圏は名寄市およびその周辺3町（美深町、下川町、風連町）に加え、音威子府村、中川町の上川北部から、枝幸町、浜頓別町、中頓別町、歌登町の宗谷南部に広がっている。さらに宗谷管内の天塩町、網走管内の西興部村、空知管内の幌加内町からも少数ながら通院、分娩の患者が来院している。

最大通院距離は120km、最長通院時間は2時間となる。しかもこの地域は公共交通機関が未整備または廃止された状態で、ことに冬季の来院者の苦勞は察するに余りある状況となっている。

しかもこの通院圏には、固定医を置く産婦人科の診療施設は他に一切無く、わずかに二カ所、出張医による月間数日程度の外来診療が行われているのみである。また本来総合病院と相互補完的役割を果たすべき個人開業医も、旭川以北には一人もおらず、この地域の住民が受ける産婦人科診療の内容、サービスを限定的なものにしてしまっている。

少子化社会の問題が指摘され始めて久しいが、周産期医療を行う施設の遍在と、地方における周産期医療サービスの低下は目に余るものがある。この問題の解決の先兵としての役割を、我々が果たしてゆかねばならないと一層自覚を深めた一年であった。

人 事

退職

1999. 03. 31. 山中康弘 慶愛病院（帯広市）へ、6月より国立癌センター（東京）

1999. 03. 31. 渡辺まり子 社会保険総合病院（札幌市）へ

就任

1999. 04. 01 伊藤秀行 中村産婦人科病院

（北見市）より

1999. 04. 01 森 典久 森産科婦人科病院
（旭川市）より

分 娩

1999年の分娩総数は448件であり、前年に比べ39件減少した。帝王切開はそのうち52件で、帝王切率は11.6%と低い水準を維持した。地域別では、名寄市在住者が216人で全体の48%を占めたが、比率としては前年より4%低下した。詳細は下の表に示す。

表1 地域別分娩件数の推移

1998年		1999年
253	名寄市	215
26	下川町	21
27	風連町	31
53	美深町	35
33	枝幸町	30
21	浜頓別町	33
13	中頓別町	15
14	歌登町	8
6	音威子府村	6
14	中川町	15
3	天塩町	3
1	幌延町	1
3	西興部村	3
5	士別市	6
2	幌加内町	2
13	その他	23

表2 手術の内訳

子宮全摘術	30	帝王切開術	52
準広汎子宮全摘術	01	子宮外妊娠手術	01
腹式子宮全摘術	19	流産手術	96
腔式子宮全摘術	08	その他	45
同 及び腔形成術	03		
子宮付属器手術	14		
子宮筋腫核出術	07		

手術件数

1999年の手術件数は総数246件であり前年に比べ件数減少した。内訳は下の表に示す。

地域医療支援事業

4月1日より、町立中川診療所に、毎月第3水曜日午後より、産婦人科サテライト外来を開設した。中川町は名寄市から90kmの距離にあり、ちょうど稚内市との中間に位置している。現在は妊婦検診や一般婦人科診療を中心に半日で10人程度の来院者の診療を行っているが、天塩町、幌延町よりの通院者もぼつぼつと見受けられるようになっており、地域に密着した一次診療施設としての認知がされ始めているようである。

今後は、妊産婦、乳児の保健指導や、地域婦人科検診の施行など、より地域のニーズに応えた診療体制を整えてゆくつもりである。

学会活動

ようやく学会活動に復帰した。本年の発表演題は以下の3題である。

第10回北海道周産期カンファランス

「妊娠糖尿病のスクリーニングに関する検討」

演者 伊藤秀行

第29回北海道母性衛生学会

「上川北部、宗谷南部医療圏における周産期管理の問題点」

演者 森 典久

第15回糖尿病と妊娠に関する研究会

「妊娠糖尿病のスクリーニングに関する検討」

演者 伊藤秀行

現在妊婦における耐糖能異常の早期発見と管理に関する臨床研究を続行中であり、さらにこの地域に多い、低出生体重児の発生要因についての解析を進めている。

指定施設関係

以下のふたつの資格について、施設としての指定を新たに受けた。

平成10年11月1日 母体保護法指定研修施設

平成11年10月1日 日本産科婦人科学会認定
医制度卒後研修指導施設